

---

# 緑友

---

No.62

1986年12月10日発行

題字 今井直一筆

## 松本に集う!! 295名 第29回全国印刷緑友会長野大会



「企業に繁栄・心に豊かさを」

長野大会 報告号



## ●第29回全国印刷緑友会

### 長野大会を終えて

全国印刷緑友会 会長 古賀 健一

## このパワーを緑友30周年記念大会に集結しよう

松本には城があり、素晴らしい高原は、アルプスの山々に抱かれるようにして広がっていた。日本の屋根と言われる広大な大自然は他国から訪れた人々を和ませてくれた。多くの農産物にも恵まれており、稲刈りの前の田は黄金の波が広がっていた。

だが全国から馳せ参じた緑友295名はそれ以上の感激をもったの大会参加となった。再会の喜びと緑友の友情と大会運営の素晴らしさに酔ったのである。

このパワー、この熱情、そしてこの信じがたい程の信頼感はどこから来るのだろうか？34グループ、295名の会員が集結し本年度の指針である挑戦・変革・創造について本音で語りあった。

自分の企業やグループの夢や悩みを夜を尽くして語りあった。緑友の将来についても真剣に討議した。

皆、若い。情熱に燃えている。何とかしたいと苦悩している。考えている。問いかけている。一生懸命答えている。肩をたたき合っている。握手している。

この理屈抜きの良さが緑友会だと信じて疑わない。益々友情の輪が広がる。良かった、良かったと全員が納得している。

円高不況？そんなもんフッ飛ばせ！情報革命？いらっしゃい。我々がやるのだ。

このパワー、情熱、友情を来年8月1日の緑友30周年記念大会に集結したい。

そしてそこで我々緑友の若さ・情熱・真剣さを業界、関連、団体に鼓舞しよう。

緑友諸兄の益々の御尽力に期待したい。

長野青年印刷人緑友会の皆さん、ありがとう！ 全国印刷緑友諸兄、ありがとう！

京都セミナーでの再会を期待している。



9月13日・14日

## 第29回全国印刷緑友会 長野大会開催



全国印刷緑友会の第29回長野大会が、長野青年印刷人緑友会の主管で9月13、14日の両日、松本美ヶ原温泉ホテルにて開催された。

全国30グループ、オブザーバー参加4グループ、総勢295名という多数の参加を得て、13日午後1時開会。

「企業に繁栄、心に豊かさを」を大会テーマに式典では、開会宣言、国歌斉唱、綱領唱和と続き、このあと来賓及び参加グループの紹介、塚田大会実行委員長のあいさつ、古賀全国会長のあいさつが行なわれた。

この中で塚田実行委員長は、多数の会員、来賓の出席に謝辞を述べてから「我々印刷業界にもニューメディアの参入により大きな変換期がきている。このようなときに若い印刷人が一同に会し、考える。」ということで今大会のパネルディスカッション「ハイテク時代我が社の戦略」の説明。全国38グループ511

名から得たアンケートをまとめ「今日この大会に來れなかった仲間もアンケートという形で参加してもらっている。今日の討議を各自グループに戻ってからも討議を続けて頂きより良い業界づくりに努力していきたい。」と訴えた。

古賀会長は、「印刷業界は金持ちでケンカにも強く、かつ頭もいいか。」と問題提起。「三拍子揃っていれば一番いいが、全てないというのでは悲しい。文化、芸術性の高いノウハウを有した業界としたい。」と訴え、「この大会を明日の業界づくりの糧に。」と締めくくった。

来賓祝辞のあと祝電が披露された。

2時からは今大会の最大のメインであるパネルディスカッションに入る。

「ハイテク時代我が社の戦略」と題し、パネラーには東洋インキ製造顧問の一見敏夫先



◀ グループ紹介



▶ パネルディスカッション

生、宮腰機械製作の太田節三先生、電通メディア開発局次長の渕野平先生、そしてコーディネーターには、長野県印工組副理事長で葦友印刷副社長の塚田武司氏をお招きし、熱っぽく討議が進められた。

この中で一見先生は「エレクトロニクスの技術が目ざましい進展を遂げており印刷産業のあり方を変えている。このようなときには、積極的に立ち向かい常に先手先手をとりながら一歩でも早く踏み出すことが必要。そうでないと企業間格差は次第に大きくなる。」と強調。一方、太田先生は「ニューメディアの

参入により印刷業は大打撃を受けた、というのは余りにも一方的な言い方ではなからうか。OAのために仕事が減ったと言う人が居たら責任を転嫁したまでであり、最近は活力のある会社に仕事が集中し、格差が目立つようになっただけである。常に世の中は変化するものだから、これを克服するのは初心に返って現在の事に努力することが解決策である。」と反論。

又、渕野先生は、「印刷がなくなるということはありえないが、情報媒体としてのシェアは減ると考えられる。これからの印刷業に



はレイアウトやデザイン力、企画力などが不可欠の要素となっていくだろう。これからの世の中は「読む印刷物から見る印刷物へ」の移行を推進すべきである。」と先の2人の先生とは中間の意見を述べられた。

これに対し参加会員からも熱心な質疑応答がなされ「とても有意義な大会」「勉強になった」「もう少し時間がほしかった」等、賛辞の言葉が聞かれた。

3時間近くのパネルディスカッションの後は写真撮影。そして6時からは懇親会が開かれた。

塚田実行委員長の歓迎のことは、古賀会長のあいさつと続き、古賀会長、竹田直前会長塚田実行委員長の3氏による鏡開きが行なわれ、竹田直前会長の音頭で乾杯し祝宴に入った。

アトラクションは民謡ジャズダンスと御諏訪太鼓が入り、特に御諏訪太鼓の迫力あるバチさばきには大きな拍手が送られた。

会場には信州大学の女子大生にもコンパニ



オンとして来ていただき宴を盛りあげてもらい、あちらこちらのテーブルで笑声が聞かれる。長野大会では前回の総会でもそうだったように立食でなく着座方式、又料理は、信州特産の物ということで、懇親会も予定より30分オーバー。皆大いに満足したようであった。

このようななごやかな雰囲気の中、次回30回大会の開催地である、在京7グループへの大会旗伝達、実行委員長山口雅也君の挨拶、そして恒例の「お手々つないで」と続き無事閉会した。

前日の全国常任幹事とOBとの合同会議、そして、式典、パネルディスカッション、懇親会と無事終了し、話題は上高地へのエクスカーションへ移った。

翌14日はくもり。早朝のグループ長、常任幹事合同会議のあと8時30分上高地に向けて出発。上高地に近くなるにつれて天気も晴れ、すばらしい景観に大いに満足。そして宿泊先の大町温泉へと向かった。

全国から集まった緑友の会員1人1人が素晴らしい思い出を作り、より一層の





友情を深めたことと思います。

以上、第29回全国印刷緑友会長野大会の報告といたします。



▲民謡ジャズダンス



▲御諏訪太鼓



▲会長を真中に、長野から東京へ



◀上高地へエクスカーション



## 第20回全国印刷緑友会セミナー 開催ご案内

### ❖ 京都の文化と伝統産業 ❖

日時／昭和62年2月7日(土)

場所／京都国際ホテル

京都市中央区二条城前 ☎(075)222-1111

登録料=17,000円(宿泊費別)

【スケジュール】	12:00～13:00	登録受付
	13:30～15:00	第1講
	15:30～17:00	第2講
	17:30～19:30	懇親会

#### 【講演者プロフィール】

ひさのり  
金剛永謹

演題:能にみる靈験の世界

##### ■芸歴■

昭和26年6月24日生  
昭和31年 仕舞・猩々(初舞台)  
昭和53年4月 金剛永謹後援会設立  
昭和59年1月 金剛流北米・カナダ公演  
団長  
昭和59年度京都市芸術新  
人賞受賞  
昭和60年9月 金剛流スペイン公演団長

川島春雄

演題:京都の歴史における西陣の変遷

##### ■略歴■

明治45年4月16日生  
昭和13年3月 東京帝国大学法学部政治  
学科卒業  
昭和20年11月 株式会社川島織物入社、  
現在取締役会長  
昭和32年5月 西陣織物工業組合理事に  
就任、副理事長等を歴任  
昭和59年4月 西陣織工業組合理事に  
就任、現在に至る  
昭和47年7月 日本室内装飾織物工業組  
合連合理事に就任  
昭和57年9月 社団法人京都国際工芸セ  
ンター理事長に就任

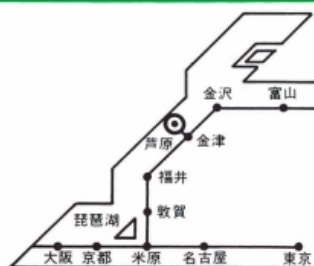


## 全国印刷緑友会常任幹事会 沖縄にて開催

昭和61年11月15日(土)午前6時30分より、沖縄ハーバービューホテルに於て、沖縄若潮会の皆様のご協力のもと開催されました。

会議終了後、若潮会会員である、(株)丸正印刷(与那覇社長)の工場を見学しました。

### 第30回 全国印刷緑友会 福井総会 へのお誘い



ヒ ショウ  
更なる飛翔を求め緑友は今…  
帰ろう緑友の原点 創ろう21世紀へのデザイン

日時…昭和62年5月16日(土)・17日(日)

場所…<sup>あわら</sup>芦原温泉 ホテル嵯峨

## 第30回全国印刷緑友会 東京大会

日時/昭和62年8月1日(土)

場所/東京・赤坂プリンスホテル クリスタルパレス

主管:緑友在京7グループ

全国印刷緑友会機関誌「緑友」第62号

〒812 福岡市博多区博多駅南4-15-17  
祥文社印刷(株)内 TEL 092-411-1611

発行人 古賀健一(福岡印刷若葉会)

編集人 和田正(神戸印刷若人会)